

興譲館の梅



【学校教育目標】

やさしく、かしこく、たくましく
笑顔の花咲く 桜っ子の育成
～すべては子ども達の自信のために～

令和8年6月17日 文責：校長

2年生のまちたんけん

桜岡校区を探検し、身近な人やもの、自然とのふれあいを通して、自然や身近な人との関わりについて学ぶ「町たんけん」に行ってきました。

2回に分けて探検し、いろいろなものを見つけました。「ゆめぷらっと」「パン屋」「カーブミラー」「神社」「薬局」「灯籠」「小城駅」「写真屋」「自動販売機」「公民館」「踏切」「病院」「銀行」「ガソリンスタンド」「羊羹屋」…。子ども達には探検をすることで、新たな発見や疑問が生まれたようです。

今後は自分の「もっと知りたいこと」を見つけながら、秋には施設等を実際に見学させていただく予定にしています。

毅然とした指導と行き過ぎた指導

昨日、「いじめ・体罰アンケート」の実施について文書を配布いたしました。

「いじめアンケート」は、いじめの状況を学校が的確に把握し対応することを目的としています。また、「体罰アンケート」は、教職員による体罰等を根絶し、児童が、安全で安心な学校生活を過ごすことができることを目的としています。

さて、今回は「体罰アンケート」について考えてみたいと思います。学校で問われるのは、「毅然とした指導」と「行き過ぎた指導」の境界線かなと考えています。

「毅然とした指導」とは、一貫した基準と信念をもって、正すべき点を明確に伝えることです。子どもの人格や存在を否定せず、やってしまった「行動(遅刻、いじめ、ルール違反など)」に対して「NO!」を伝えます。繰り返しよくない行為をしてしまう場合や相手の心を傷つけた場合、相手の命に関わる場合などでは、厳しく指導いたします。しかし、「怒る」ではなく、理性をもって真剣に「叱り」「諭し」ます。また、「なぜそれがダメなのか」を子どもが理解できる言葉で説明します。

その反対に、「行き過ぎた指導」とは、子どもの尊厳を傷つけたり、過度な精神的・肉体的苦痛を与えたりすることです。人格否定や暴言など、子どもの存在自体を否定する言葉を使うこと。密室で何時間も説教を続けること。これらが当たると考えます。

アンケートに「体罰とは思わないが、行き過ぎではないかと思われる指導を受けた、又は受けているのを見た(聞いた)ことがありますか。」という問いがございます。お子様とお話し合いをされ、もしも「行き過ぎた指導」がありましたら、アンケートにご記入ください。よろしくお願いいたします。

熱中症対策に取り組んでいます！

現在は日中「警戒」が続いており、帽子、水筒を運動に持っていくことを子どもたちに呼びかけています。「厳重警戒」については、帽子をかぶり水筒、タオルを運動場に持っていくよう指導をします。そして、休憩、水分補給について、放送で呼びかけます。「危険」については、外遊びを禁止します。外遊びが大好きな子ども達には少々酷かもしれませんが、大切な子ども達を守るための取組を行います。

暑い日が続きますので、水筒は必ずもたせていただきますようお願いいたします。